

決 議 文

兵庫県の中央から中央東部に位置する北播磨・丹波地域は、子午線に沿うように日本海と瀬戸内海をつなぐ国道175号によって県内外の各地域と結ばれ、その交通の恩恵により発展してきた。

しかし、産業構造の変化、高齢化の進展、人口減少、気候変動に伴う災害の激甚化・頻発化等による地域への深刻な影響が懸念されている。このような中、地域経済の再生を図るためにも、誰もが安全・安心に暮らせる地域づくり、地域特性を生かした産業の活性化と賑わいあふれる地域づくり、持続可能な地域づくりの推進が、より一層重要となっている。

近年、全国各地で想定をはるかに超える甚大な災害が相次いで発生している。平成30年7月豪雨では、中国自動車道、山陽自動車道をはじめ、周辺のほとんどの高規格道路が通行止めとなる中、国道175号は高規格道路ネットワークを補完する広域迂回路として、極めて重要な役割を果たし、災害時でもその重要性が再認識された。また、令和6年1月に発生した能登半島地震や本年7月に発生した熊本地震では、高規格道路のミッシングリンク解消や、ダブルネットワークによる交通機能確保の必要性を改めて痛感したところである。

国道175号は、地域住民の日常生活や地域経済・社会活動を支え、加えて大規模災害時における地域安全保障のエッセンシャルネットワークとして、住民の命をつなぐ最も重要なインフラである。本路線の整備は、地域の活性化に大きく寄与するだけでなく、「WISENET2050」が掲げる、わが国の経済成長や物流強化、地域安全保障に資するものであり、全区間の早期開通が強く待ち望まれている。

そのような中、令和8年6月に西脇北バイパスが2車線で全線開通した。利便性の向上や渋滞緩和が実現し、その効果を地域住民が肌で感じ、大きな喜びを感じているところである。また、今回開通した西脇北バイパスより北の区間についても、令和8年度予算概要の「道路調査の見通し」において、国道175号西脇・丹波間の調査実施が明記された。これは事業化に向けた新たな一步を踏み出すものであり、当地域にとって誠に意義深く、大きな希望を持って注目している。

都市部と地方部の均衡ある発展、当地域の活力ある地域づくりと生産性向上、命をつなぐ道路ネットワークの構築、災害に強い道路ネットワークの構築等を図るため「国道175号東播丹波連絡道路」全線開通の早期実現について、格別の配慮がなされるよう強く要望するとともに、我々も持続可能で魅力ある地域づくりをより一層力強く推進することをここに決議する。

令和8年9月12日

国道175号東播丹波連絡道路
早期実現促進大会